

パレスチナ人の現実

ナブロス難民キャンプで生まれて

お話し：マフムード・アル=マフムードさん（アラビア語講師）

1948年のイスラエル建国以来、家や土地を奪われ、難民となったパレスチナ人は約500万人、そして60年が過ぎました。パレスチナ人の多くはやむなく家族別々の地で暮らし、今なお先行きの見えない生活を強いられています。マフムードさんの生きてこられた軌跡をお聞きすることは、パレスチナの現実を知ることであり、パレスチナ問題を身近に考えるきっかけとなるでしょう。

★日 時 2009年9月5日（土）午後2時～4時

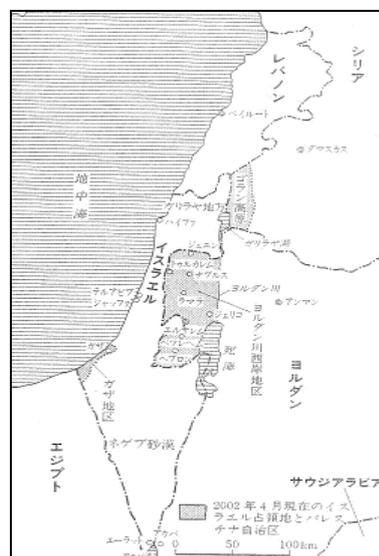
★会 場 とよなか国際交流センター 3F イベントホール

（阪急豊中駅から徒歩約10分 Tel. 06-6843-4343）

★参加費 300円

＜マフムードさんの生い立ち＞

両親はパレスチナのハイファという町で暮らしていましたが、イスラエル建国により追放されて難民となり、ナブロスの小さな難民キャンプへ。1960年、そこでマフムードさんは生まれました。その後、家族は紛争を逃れ、ヨルダンのアルカラヤ・キャンプなど、あちらこちらの難民キャンプを移動しました。そのような中で、彼が5歳の時にお父さんが病気になる、医師に診てもらえず、4人の子どもたちを残して亡くなりました。食料も生活も教育も、すべて国連に頼っていたという難民キャンプでの生活は大変厳しいものでした。



マフムードさんがアラビアコーヒーをいれてくださいます。お楽しみに！

主催・問い合わせ先 NPO法人 国際交流の会とよなか（TIFA）

電話&FAX 06-6840-1014 Eメール：tifa99@nifty.ne.jp

ホームページ：http://homepage1.nifty.com/tifa/